

問題一 次の文章を読んで、設問に答えよ。

何世紀にもわたって、情報伝達といえ、言語(文字)が主役だった。A、この五〇年ほどでテレビが世界

中に①ふきゅうし、状況が変わった。非言語(映像)が、情報伝達の重要な役割を果たすようになったのである。テレビと文字(活字)、それぞれ伝達の得意分野は異なるが、テレビがちよつと優勢とみてもいいのではないか。何しろB「である」。

東日本大震災のときも、新聞や②ざつしが言葉で報じるより、テレビの映像のほうがはるかに「実際はどんな状態になっているのか」がわかった。テレビは、「非言語コミュニケーション」の重要性をわれわれに突きつけているのである。なぜ最近の若い人は本を読まずに、テレビを見るのか、の答えのひとつになっている。テレビは一瞬にして膨大な非言語情報まで伝える便利な道具なのである(この二〇年ほどはインターネットもあるが)。

私たちは、いい方や表情、③所作、衣服などの非言語情報を加えることで、言語情報の意味が一八〇度変わったりする局面があることに気づいたのである。

そのことをはっきりいった人は、日本で私以前にはあまりいなかったように思う。なぜか——。演劇人は、ずっと昔から非言語情報が重要であることに気づいていた。「嫌い」という台詞も、そつぽを向いていえば「好き」という意味になるなどは、誰もが知っている常識以前のことである。

しかし、役者の演技は、アクション、表情の変化、イントネーションなど、たくさんの要素が重なっている。それを分解写真で伝えようとしても隔靴搔痒の感は免れない。また、似たような演技でも、役者の顔かたちや、前もって他者に知られている人柄などの情報によっても、伝わり方が異なる。同じ台詞でも、有名な一枚目俳優がいうのと、売れないお笑い芸人がいうのでは、まったく意味が違ってくる。

重要ではあるが、以上のようなことは、書物になりにくいのである。「非言語コミュニケーション」の大切さに演劇人は気づいていたが、それを④説く方法がなかったのである。

C「心理学者はどうか。「非言語コミュニケーション」は、おもに心理学者の研究領域である。アメリカでも、心理学者が⑤盛んに扱っている。アメリカは多民族国家だから、元来「非言語コミュニケーション」が重要な国である。アクションでわかりあうほかない。言葉の通じない人が周囲にたくさんいるのである。アクションがコミュニケーションに重要な要素だという考え方ができあがっている。

日本でも、「非言語コミュニケーション」を扱う心理学者はたくさんいる。だが、ほとんど全国で日本語を通じるし、日本人は相手の表情を読む力に長けている。だから、表情の変化も小さいし、アクションも小さい。それでもコミュニケーションには支障がない。分解写真を使って⑥ひけんしゃの反応を調べても、変化が⑦びみょうすぎて認知心理学では実験がしにくい。心理学を学ばない人にまで伝わるほど、訴えの強い実験成果は、日本からはあまり出していない。

演劇人や心理学者は、「非言語コミュニケーション」が大切であることを伝えたくても、その手段を持っていなかった。それに対して、学者や作家など言語主体の知識人は、言語が伝達の王座に座っているという認識を基本的に変えたくなかったのではないか、とも思う。

しいていうなら、国語教育の現場で、「声を出して言葉を伝える」ことの大切さを説いている教師が少数ながらもいたという程度である。「話す」ことの大切さに気づいた教師がいなければ、日本語は「読み・書き」だけを教えられるよいいことになってしまう。音声重視する教育者を加えても、「非言語コミュニケーション」の大切さを自覚していた人は、ほとんどいなかった。

〔人は見た目が9割〕「超」実践編 竹内一郎

設問一

内、①～⑦の平仮名(ひらがな)は漢字に、漢字は平仮名(ひらがな)に書き換えなさい。

設問二

 A、 C

には、どんな接続詞(つなぎことば)が入るか。次の中から最も適切と思われる語をそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア だから イ また ウ では エ すると オ ところが

設問三

 B

には、どんなことわざが入るか。次の中から最も適切と思われるものを選び、記号で答えなさい。

ア 言うは易し行うは難し

イ 目の上のこぶ

ウ 百聞は一見にしかず

エ 知らぬが仏

オ 井の中の蛙大海を知らず

設問四

右に傍線のある語句(a)「情報伝達」といえば、言語(文字)が主役だった」と同じことを述べている箇所を本文から十五字以内で書き抜きなさい。

設問五

右に傍線のある語句(b)「嫌い」という台詞も、そっぽを向いていえば『好き』という意味になる」理由を説明した次の文の空欄に当てはまる語句を、本文中から書き抜きなさい。ただし、アは九字、イは四字とします。

「嫌い」という言葉は、「そっぽを向く」という(ア)ことによって、言葉通りの「嫌い」という

(イ)の意味が、実は「好き」なのだという意味を伝えるものへと一八〇度変化するから。

設問六

右に傍線のある語句(c)「それを分解写真で伝えようとしても隔靴搔痒の感は免れない」について、以下の設問に答えなさい。

① 「それ」の指し示す内容を、本文に則して二十字以内にまとめて書きなさい。

② 「隔靴搔痒」はどのような意味か。次の中から最も適切と思われるものを選び、記号で答えなさい。

ア 思うようにならず、もどかしいこと。

イ 手がかりのない状態で探し求めること。

ウ 周囲の援助が受けられず、苦しむこと。

エ 次から次へと災難に見舞われること。

オ 時流に合わず、役に立たないこと。

設問七

右に傍線のある語句(d)「同じ台詞でも……まったく意味が違ってくる」のはなぜか。次の中から最も適切と思われるものを選び、記号で答えなさい。

ア 俳優とお笑い芸人とは、伝達しようとする言語情報が異なるから。

イ 俳優とお笑い芸人とは、周囲とのコミュニケーションの形が異なるから。

ウ 有名な二枚目俳優と売れないお笑い芸人とは、表現力に差があるから。

エ 有名な二枚目俳優と売れないお笑い芸人とは、台詞以外の情報が異なるから。

オ 俳優とお笑い芸人とは、まったく違う情報の伝え方をするから。

設問八

右に傍線のある語句（e）『非言語コミュニケーション』の大切さを自覚していた人は、ほとんどいなかった」ことの要因として誤っているものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日本人は相手の表情を読むことが得意であり、表情の変化が小さくてもコミュニケーションに困らないこと。

イ 日本では、「非言語コミュニケーション」に関する研究や実験があまり行われていないこと。

ウ 日本ではほぼ全国で日本語が通じるため、訴えの強いアクションをあまり必要としないこと。

エ 日本の知識人が、「非言語コミュニケーション」の大切さを説くことに消極的であったこと。

オ コミュニケーションにおける非言語情報の要素は、演劇や心理学に携わっていない人にとってわかりにくいこと。

問題二 次の文章を読んで、設問に答えよ。

(これまでのあらすじ)

高村雄介は高校の教師で、不登校を続ける男子生徒、安藤修司の担任である。家庭訪問を続ける雄介は、安藤が、父親のリストラで自暴自棄になっていると知る。ある日、学校に安藤の退学届が速達で届いた。同僚の榊原から連絡を受けた雄介は、退学届を取り消しに来た安藤の父親と会う。退学届はまだ榊原が預かっており、安藤の父親はほっとする。

「このまま、お帰りになるんですか？」と雄介は訊いた。

「ええ、息子とね、もつと話し合わないと……殴り合いですけど。とにかく中退はさせたくないんです、学歴とかそんなのじゃなくて、うまく言えなくて、だからけつきよく息子にも通じないんですけど、なんて言えばいいんでしょうね、だから……」

雄介はひとつ大きくうなずいて、言った。

「教室に行ってみませんか」

「え？」

「せっかくだから、息子さんの席に座ってみてください」

立ち上がり、さあ、とうながした。

父親はきよとした顔で、

A

腰を浮かせた。

最初は啞然として雄介と父親を見比べるだけだった榊原が、二人が歩きますと

B

「ちょ、ちょっと待って

ください」と呼び止めて、机の角に膝をぶつけながら池内の席に駆けていった。

本棚から古文の教科書を抜き取って、二人を振り向き、にっこりと笑う。

「これ、あったほうが気分が出るんじゃないですか？」

(a)

きつと、榊原は、いい教師になる。職員室を出るとき、雄介は筒にして持った自分の教科書で榊原の尻を軽く叩

いてやった。

がらんとした教室に、教科書を読む雄介の声が響き渡る。

(b)

窓から三列目の、前から四番目——息子の席に座った父親は、教科書をばらばらめくったり、黒板を眺めたり、机の天板を撫でたり、椅子に座った尻の位置を細かく変えたりしながら、教壇に立つ雄介と目が合うと、首をかしながら頬をゆるめる。いまにも声をあげて笑いだしそうな、けれど泣きだす

①

寸前

のようにも見える表情だった。

(c)

②

冒頭

「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり……」という、仮にも古文の教師だ、すっかり諳んじている一節を、文字の

③

連

読んでいった。

オレたちはどこから来て、いまどこにいて、これからどこへ行くのだろう。昼間、答えの出せなかった問いは、いまも胸の奥のどこかにぼっかりと浮かんだままだ。

C

、それは、どんなに近づいても届かない問いなのか

もしれない。

明日になると、父親はまた居場所のない一日を過ごすだろう。ライオンのたてがみをうしなった雄介は、明日から、いまは気づいていない自分のなくしたものの大きさを思い知らされてしまうかもしれない。

それでもいい——雄介は思う。

教科書を読み終えて、教壇から父親に

④

なつ

かしいでしょう」と声をかける。

父親はあらためて教室を眺め渡し、「息子が小学生の頃の父親

⑤

さんか

んび

以来ですよ、学校の教室に入ったの」と言った。「教科書も、もうぜんぜん見てませんからね」

〔でも、オトナだって、昔はここにいたんですよ。オトナはみんな、かつて生徒だったんですよ〕^(d)

雄介の言葉に、父親だけでは、教室の後ろのドアに立つ榊原も、うんうん、とうなずいた。

父親は座ったまま椅子を引き、また戻し、机の天板を軽く叩いて、肩を揺すった。

「いたんですよ、ここに」

「そうですよ、みんないたんですよ、教室にいなかったひとなんて誰もいないんですよ」――榊原の声が、裏返る。雄介は教室の両縁に手をつけて、教室ぜんたいを⑥ しやに収めた。

⑦ せまい部屋に閉じこめられている、と生徒たちは言う。だが、彼らにはわからないことだ、教室から眺める教室は、D サイズが変わる。授業がうまく進んでいるときには、生徒一人一人の顔がくつきり見えて、両手を伸ばせば生徒全員を包み込めそうな気さえする。そうでないときには、自分の声^(e)が教室の真ん中あたりでうなだれてしまうのがわかる。

だから――安藤に伝えたいことがある。まだ、たくさんある。立ち止まらなくても、振り向かなくてもいい、返事はいらぬ、ただ、伝えたい。

〔『ライオン先生』重松清〕

設問一

 内、①～⑦の平仮名(ひらがな)は漢字に、漢字は平仮名(ひらがな)に書き換えなさい。

設問二

A D には、どんなことばが入るか。次の中から最も適切と思われるものをそれぞれ一つ

ずつ選び、記号で答えなさい。

ア まるで生き物のように

イ 不意にわれに返ったように

ウ なにか目に見えない糸に吊り上げられるように

エ アスファルト道路の逃げ水のように

設問三

右に傍線のある語句(a)「職員室を出るとき、雄介は……榊原の尻を軽く叩いてやった」のは、なぜか。次の中から最も適切と思われるものを選び、記号で答えなさい。

ア 雄介の急な申し出を聞いて慌てている榊原を落ち着かせるため。

イ 将来有望な榊原をうらやましく思い、自分も負けまいとする気持ちを表すため。

ウ 榊原の気遣いをうれしく思い、感謝の気持ちをさりげなく伝えるため。

エ 事態が収束したと思っっている榊原に、まだ気を抜いてはいけないと警告するため。

オ 自分はどうしてもいいかわからず戸惑っている榊原を鼓舞するため。

設問四

右に傍線のある語句(b)「息子の席に座った父親は、教科書をばらばらめくったり……尻の位置を細かく変えたりしながら」という表現から読み取れる父親の心情として次の中から最もふさわしくないものを選び、記号で答えなさい。

ア 興奮 イ 緊張 ウ 遠慮 エ 郷愁 オ 高揚

設問五

右に傍線のある語句(c)『奥の細道』は誰の作品か。作者名を漢字で答えなさい。

設問六

右に傍線のある語句(d)について、雄介はこの言葉で安藤の父親に何を伝えようとしたのか。次の中から最も適切と思われるものを選び、記号で答えなさい。

ア 安藤の父親も、かつては学校で多感な時期を過ごしたように、不登校の息子も様々な思いを抱えている、ということ。

イ 今の学校教育は、安藤の父親が学生だった頃とは全く違うように見えるかもしれないが、実は何も変わってはいないのだ、ということ。

ウ 安藤の父親は不登校の息子をわがままだと感じているかもしれないが、それは当時の父親だって何も変わらない、ということ。

エ 安藤の父親が優秀な生徒であったことは十分わかったので、今はいろいろと辛いことがあるにしても、自然に道は開けるだろう、ということ。

オ 安藤の父親も学生だった時期を経てオトナになったのだから、退学するかどうかもこれからオトナになっていく息子の意思に任せるべきだ、ということ。

設問七

右に傍線のある語句(e)「自分の声が教室の真ん中あたりでうなだれてしまう」という比喻表現に用いられている修辞法を漢字で答えなさい。

設問八

本文中から、安藤の父親が失業中であることを暗示する一文を探し出し、最初の五字を書き抜きなさい。